

2021年8月20日

学生のみなさん

副学長（学長代行） 米山裕

APUでのワクチン職域接種実施に向けた副学長メッセージ

学長代行として、ワクチン接種にあたって学生のみなさん一人ひとりに考えてほしいことをお伝えします。

あなたは大学生です。大学は、人間社会の知の創造と伝達の間としてヨーロッパ中世に誕生しました。現在は世界中の大学がその役割を果たしています。あなたが APU で大学生・大学院生になることを選択したということは、在学中に人類の知の遺産を受け取り、自ら人類の知の集積に新しいものを加える人間として成長することに合意したことを意味します。

いま人類社会は、新型コロナウイルスの世界的流行を抑え込むべく必死の努力を続けています。専門家の研究により、流行初期段階から、三密（密集、密接、密閉）や共同生活が、感染の危険性が高い社会的状況であることが明らかになりました。それに対して手洗いや消毒、マスクの着用、大声での会話・発声の回避などが、感染防止に有効であることも明らかになりました。そして、感染防止の決定打と考えられるのがワクチンです。開発段階における治験、そして各国で大規模に実施されている接種によって、その感染防止の有効性は実証されています。日本でも、ワクチン接種が進んだ高齢者の感染事例は激減しました。

コロナウイルスの危険性を甘く見ないでください。若い人は「軽症」で済むことが多いと報道されていますが、39度以上の高熱を発生し、咳が止まらず苦しく、入院して治療を受けるような場合でも医学の世界では「軽症」と扱われることがあります。「中等症」というのは、肺炎を起こして血中の酸素濃度が不足する状態を指し、呼吸が困難な（呼吸しても十分な酸素を取り込めない）状態を指します。また後遺症の問題もあります。味覚異常や倦怠感が長く残り、生活の質が大きく低下し、学習や勤務に差し支えるようなケースも多く報告されています。私たちは、真剣に感染防止に取り組まなければなりません。

このたび、APUではキャンパスにおいてワクチン接種を開始します。その第一の目的は、本学の学生・教職員・関係者の方々の健康と安全・安心を守り、授業と学生生活を安心して送れるようにすることです。第二の目的は、新型コロナウイルス感染拡大防止に大学として貢献すること、地域自治体におけるワクチン接種の負担軽減等に協力することです。予約受付は8月23日（月）から開始します。初回の接種日は9月4日（土）、5日（日）を予定しています。その他の接種日程や予約方法についてはキャンパスターミナルの「あなた宛ての重要なお知らせ」を参照してください。また、Q&AをAPUのウェブサイトにて公開していますのでご覧ください。

<https://www.apu.ac.jp/home/notice/content3/>

接種をするのか、接種をしないのかという選択は、どの人も必ずすることになります。ワクチン接種は強制ではなく、任意のものです。自分の体質や持病、副反応などを踏まえたうえであなたが判断してく

ださい。

その選択にあたって、以下のことを訴えます。

第一に、現代社会においては、それぞれの分野が高度に専門化し、素人では判断するのが難しくなっています。しかし、あなたは大学生として、さまざまな情報を読み解き、証拠に基づいて判断する能力を向上させてきました。ワクチン接種にあたって、その能力を活用してください。私たち人間は、専門家の集合知が最終的には最も正しいことを歴史を通じて学んできました。冒頭で述べた、人類の知の遺産を受け取る行為を実践してください。

《日本語サイト》

厚生労働省

[新型コロナワクチン Q&A](#)

Cov-Nav こびナビ（医師などによるコロナウイルスワクチン情報サイト）

[ワクチン Q&A：みなさんへ](#)

[動画・スライド：みなさんへ](#)

《英語サイト》

U.S. Centers for Disease Control and Prevention

[About COVID-19 Vaccines](#)

[Myths and Facts about COVID-19 Vaccines](#)

U.S. Department of Health and Human Services, Office of the Surgeon General

[Confronting Health Misinformation: The U.S. Surgeon General's Advisory on Building a Healthy Information Environment](#)

第二に、自分が健康な場合は、他の人を助け、守るという社会の一員としての義務を思い起こしてください。体質、持病、宗教上の理由でワクチンを接種できない人たちがいます。免疫が弱い人たちもいます。彼らを守る最善の方法は、上記の制約のない人たちができる限り多くワクチンを接種して社会全体の免疫を高める（集団免疫を獲得する）ことです。一人ひとりの接種への決断は、それに向けての一步となります。世界のどの地域も集団免疫を獲得したと言える段階には達していません。当面は接種の有無にかかわらず、引き続き全員が感染予防対策をとる必要が残っています。また、接種しない人が差別的な扱いを受けることがないように配慮し、お互いの意思決定を尊重してください。

第三に、APU が世界に開かれたキャンパスであること、世界に類をみない、世界中から学生が集まる多文化キャンパスであることを思い起こしてください。日本も含め世界中でワクチン接種が進むことで、国際的な往来が再開し、多文化キャンパスを取り戻せます。対面授業、研究活動、海外留学プログラム、課外活動、AP ハウスでの生活なども、もとのように活発に戻しましょう。

なお、今回の APU でのワクチン職域接種には、大分県厚生連鶴見病院の医師・看護師の皆さんをはじめ、多くの関係者の皆さんにご協力いただきます。お忙しい中 APU のために力を貸してくださる皆さんに感謝したいと思います。

もう一度確認します。ワクチン接種は強制ではなく、任意です。私は、あなたが、APU の一員として、世界市民のひとりとして、熟考に基づいた判断をすることを期待します。